Chigasaki Municipal Hospital【Newsletter】

茅ヶ崎市立病院通信

当院の取り組みや健康に関する様々な情報をお知らせします

令和８年７月１日発行　特別号

市民の健康を守るため
地域の基幹病院として

小児・周産期医療充実　救急診療充実　がん診療強化
患者サービス向上　職員満足向上　地域連携推進

健やか・共創

特　集

新しい市立病院

- 整形外科
- 呼吸器内科・呼吸器外科
- 代謝内分泌内科・腎臓内科

茅ヶ崎市立病院

03

代謝内分泌内科・腎臓内科の取り組み



糖尿病、腎臓疾患に向き合う

糖尿病や肥満症に取り組む代謝内分泌内科
医師5人体制で診療と治療に対応

代謝内分泌内科という名称は、一般の方にはなじみがないかもしれませんが、主に糖尿病や内分泌、ホルモン異常などの疾患を診ています。病院によっては糖尿病内科となっていることもありますが、当院では糖尿病だけではなく、脂質異常症、ホルモンによる高血圧なども扱っているため、この名称になっています。

とはいえ、実際に一番多いのは糖尿病です。2026年4月現在、当院では医師5人体制で診療に対応しており、地域のクリニックから紹介される患者さんにも、可能な限り対応できる体制づくりに努めています。インスリンを持続的に少量ずつ注入するインスリンポンプや、センサーを用いて血糖変動を確認できる持続グルコース測定器など、丁寧な経過観察と適切な管理が必要な治療にも対応しています。

最近では肥満症治療にも力を入れています。近年、肥満症の治療薬が日本でも使われるようになり、当院では肥満症治療薬の処方に関して、厚生労働省が定める保険診療の規定に適合した体制で対応しています。

急性期※の透析から腹膜透析にも対応
腎臓内科は全身の病態を診るハブの役割

腎臓内科は、主に腎炎などの腎疾患の治療を行っています。膠原病のように全身性疾患と関連した腎疾患もあるため、全身の病態を踏まえて診療する科でもあります。腎臓は高血圧、糖尿病との関連性も強く、生活習慣の管理にも関わっています。

腎臓の治療には、大きく分けて血液透析、腹膜透析、腎移植、薬による治療があります。患者さんやご家族の考え方、体調、年齢などを考慮した上で、どの治療を選択するのかを十分に説明し、相談しながら検討します。透析に関しては、当院では急性期の透析にも対応しています。

生活習慣病によって腎臓に影響が出る方は多く、透析に至る原因としては糖尿病、高血圧、

※：腎臓の機能が急激に低下した状態



腎炎などが挙げられます。この 10 年ほど、糖尿病は治療薬が進歩してきており、透析に至る割合には変化も見られています。一方で、高齢化が進むにつれて、高血圧が原因で腎臓を痛める患者さんは今後も増えていくと考えられます。高齢になるほど適正な血圧には個人差があり、それぞれの患者さんに合った薬を選択することが大切です。血圧を下げることで体に負担がないかを見極めることも、専門医の重要な役割です。

また、透析患者さんは、がんや感染症などを合併して入院になることがあり、手術が必要なケースもあります。そういったときに腎臓内科はハブの役割を果たし、透析の管理を行いながら、気づいたことを主治医に伝えるなど、診療を支えています。

糖尿病から人工透析、ホルモン検査から高血圧治療
顔の見える院内連携で治療に対応

糖尿病を持っている患者さんは、長い年月の中で腎臓に影響が出ることがあります。そうなると代謝内分泌内科だけでは対応が難しいため、腎臓内科との連携が必要になります。

逆に高血圧系の疾患についても、原因の多くは遺伝や生活習慣ですが、内分泌疾患が原因で高血圧になる場合もあります。そのため、内分泌疾患が隠れていないかホルモン検査を行い、原因に応じた治療を検討することがあります。

両科は外来の診察室が隣接しているため、必要なときにすぐ相談できる環境があります。「腎臓の治療でこの薬を追加したい」「その薬なら糖尿病には問題ない」といったやりとりを、顔の見える状態で行えることは、当院の特徴の一つです。そこでは両科の医師だけでなく、看護師や管理栄養士、薬剤師も加わり、それぞれの専門性を生かしながら対応しています。

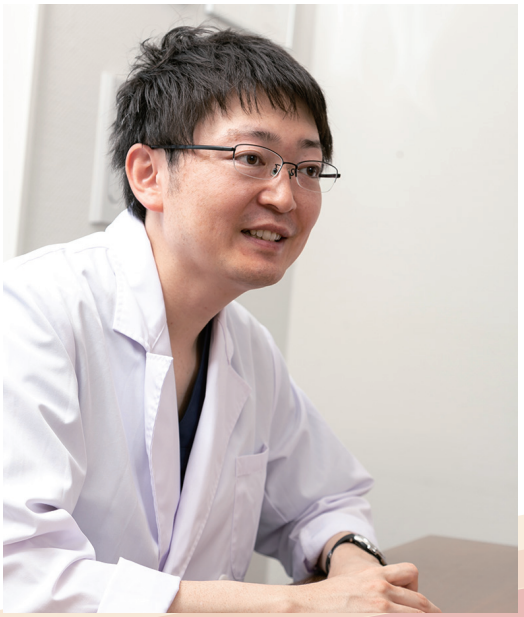
院内連携でいえば、小児科には糖尿病を専門に診る医師もいるため、小児期に発症して治療を続けてきた患者さんが、大人になった後も代謝内分泌内科で治療を継続できる体制があります。小児科から成人診療へつなぐことができる点も、当院の特徴の一つです。

患者さんの負担を減らすために
地域のクリニックとの情報交換、連携をスムーズに

腎臓内科を受診する方は、健康診断やかかりつけ医で行う腎機能チェック、尿検査で腎臓の問題が見つかり、紹介されるケースが多くあります。そのため、地域のクリニックとの連携がとても大切になります。重症の患者さんは当院で診療し、その後の管理はかかりつけ医にお願いするなど、地域全体で診療をつなげていくことが重要です。

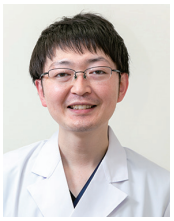
糖尿病に関しても、血糖値が高い方は多く、専門医だけですべてを診ることは難しい面があります。軽症の糖尿病については、地域の先生方にも診療を担っていただくことで、患者さんの負担を減らしながら、必要な医療につなげることができます。

私たちは、勉強会などを通して地域医療連携を進め、近隣の先生方とのコミュニケーションを密にすることにも力を入れています。





INTERVIEW



代謝内分泌内科部長
宮下　大介

日本内科学会認定総合内科専門医・内科指導医、日本糖尿病学会認定専門医・研修指導医、日本内分泌学会代謝科（内科）専門医・指導医、日本専門医機構認定内分泌領域専門研修指導医



腎臓内科科部長
増田　真一朗

日本内科学会認定内科医・指導医、日本透析医学会認定透析専門医、日本腎臓学会認定腎臓専門医・指導医、日本高血圧学会認定専門医・指導医、身体障害者福祉法指定医（じん臓機能障害）